



11月9日は「119番の日」

正しい119番通報の方法

「119番の日」は、消防への正しい理解と認識を深め、防災意識を高めることを目的として昭和62年に制定されました。実際に119番通報を行う時は緊急時であり、予期せぬ事態に落ち着いて対応することは難しいと思いますが、あらかじめ119番通報時のポイントを抑えておくことで、通報するような場面で適切な対応を取りやすくなります。今月号では「119番の日」に合わせて、救急の場면을例に通報の流れをご紹介します。ぜひ、もしもに備えてイメージしてみましょう。

119番通報の流れをイメージしてみましょう

(例) 急に倒れた祖母のために救急車を要請



いばらき消防指令センター 指令員

119番、いばらき消防指令センターです。火事ですか？ 救急ですか？

救急車が向かう住所を教えてください。

どなたがどういう状況ですか。

わかりました。今、電話している方の名前と電話番号を教えてください。

ありがとうございます。今、救急車が向かっていますので、到着までその場でお待ちください。

通報者

大宮太郎さん



救急です！

常陸大宮市●●町○○番地です。水色の車が止まっている家です。

おばあちゃんが胸を抑えて倒れてしまって……。高血圧の薬を飲んでいて、■■病院に通院しています。

大宮太郎です。電話番号は、080-▲▲▲▲-▲▲▲▲です。

ポイント1

住所がわからないときでも周りを見渡して、目印になる建物や電信柱の番地表示、交差点名などを伝えるようにしましょう。

ポイント2

誰が、どのように、どうなったかを簡潔に伝えるようにしましょう。意識や呼吸の有無なども教えていただくと、必要に応じて、応急手当を案内することができます。

ポイント3

詳しい状況や場所を確認するために、再度、電話することがあります。通報後は電源を切ったり、緊急な通話以外のことは避けるようにしましょう。